和水町の障がい者施設・事業所を紹介します

町内にある、障がい者施設・事業所を知っていただくことを目的に、施設・事業所などの紹介を行います。

第2弾　菊水さくら寮・さくらワーク菊水

【菊水さくら寮】

【さくらワーク菊水】

菊水さくら寮・さくらワーク菊水　とは…

菊水さくら寮、さくらワーク菊水は、社会福祉法人博心会が下津原で運営している施設です。

菊水さくら寮

24人の障がい者の人が生活をおくるグループホームです。炊事・洗濯・お金の管理などを中心に、将来的に自宅や地域で自立した生活ができるように練習をする施設です。

さくらワーク菊水

20人の就労を中心に訓練をする施設です。（就労継続支援※B型事業所）。一般就労に向けた体力づくりや、技能向上を目的に、職員見守りの上で簡単な内職作業から外部から発注されるエアコン清掃、除草作業などを行っています。

エアコン清掃、除草作業などのご依頼やその他質問などございましたら下記の番号までお問い合わせ下さい。

フリーダイヤル　☎0120・600・322（担当：原賀）

※就労継続支援B型って？

一般への企業の就職が、困難な障がいをお持ちの人に就労の機会を提供し、将来一般企業で就労するために知識及び能力の向上に必要な訓練などを提供する施設です。

広報なごみ12月号で紹介したA型との違いは雇用契約の条件の違いがあげられます。A型では、雇用契約に基づく就労が可能であるということが条件ですが、B型では、雇用契約に基づく就労も困難な人ということが条件となります。

所在地	和水町下津原3951
電話番号	菊水さくら寮　0968・86・5000 さくらワーク菊水　0968・86・5001
提供サービス	共同生活援助 就労継続支援B型
対象者	知的障がい・精神障がいの方

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

15

大田幸博
（元・菊水町史編纂委員会副委員長）

今年も、宜しくお願い致します。山城では、怪我のない様に、頑張ります。新しい発見もありましたので、新年号は、一部加筆して、見直しをしました。

M区

野首は、尾根筋が極端に狭くなった所で、主軸尾根62とⅡ郭―1の間が、それに該当します。現在は、尾根道61が通っていますが、東側から60、西側から63～66の弧状造成地が食い込み、尾根筋をさらに狭くしています。そのために、中心部は、土橋地形になっていたと推定されます。後述の、堀切1は、この地形に良く似ています。

N区

主軸尾根62は、野首の北側上段近くに南端部があります。端部は、土塁の形をしていますが、北に進むと尾根筋らしくなって、最大幅16mに膨らむ所があります。

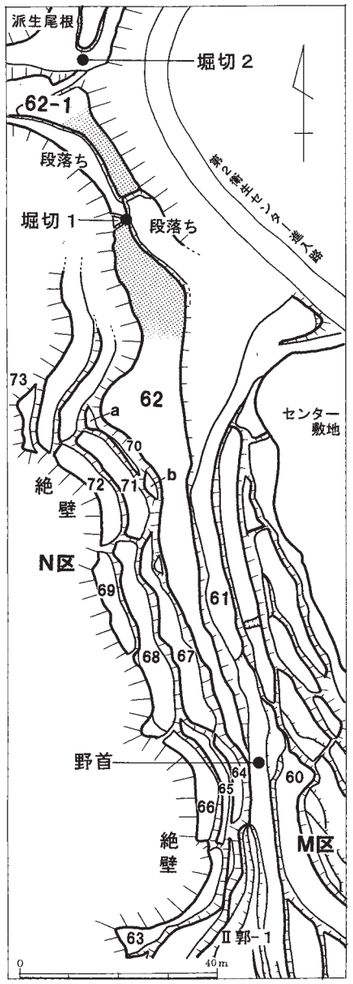
野首から北へ長さ110m地点に、堀切1があります。長さ5m、幅3・5mで、尾根筋の西側に下っています。ただし、完全な切断には至らず、東縁に幅0・5mの残地があり、通路になってます。特筆すべき事は、尾根筋両脇の段落ちが残地の手前では東側にあり、これを跨ぐと西側に変わる事です（着色した個所）。何か意味がありそうな造りです。

これに続く62―1は、長さ24m、幅3～4m、北端で大きく西側に彎曲します。主軸尾根の変化点で、この個所から長さ72・5mの個所に、端部の小さな高まりがあります。

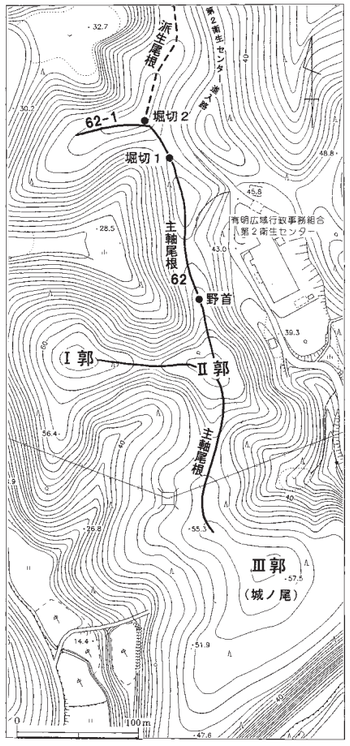
堀切2は、本格的な造りで、62―1の北下にあります。主軸尾根の段下がりに位置して、北側と西側に延びる派生尾根（枝分かれ尾根）を、付け根部分で断ち切っています。この先を踏査しましたが、自然地形が広がっていました。この事から、堀切2が、城域の北限遺構と判断しました。

62の西側斜面部は、造成の仕方に共通点があります。元々、急傾斜地ですが、それでも斜面の途中から上位は、大幅に人の手が、加わっています。最上段の62の直下斜面を急峻に削り落した上で、下位に3段の、帯状削平地を設けています。この組み合わせは、このエリア内で、4個所にあります。意図的なものでしょうか。各段の高低差は、62と67が2・0m、67と68が2・1m、68と69が1・5m。大きさは68が最大で、幅5m、長さ39mを計ります。

70～72は、上段の70が幅1・5m、長さ12mの小規模な犬走りです。両側は、足掛り的な小段（a・b）に挟まれています。一方で、絶壁の直上に造成された小規模な削平地の73は、幅3・5～1・5m、長さ14mです。この2個所は、特徴ある遺構として注目されます。各箇所の最下段から西側は、いずれも絶壁になります。



江栗城跡　N区測量図



江栗城跡　周辺地形図（縮尺1／5000）